

コロナ禍における社内技術研修のオンラインによる取り組み

中日本高速道路(株) 正会員 ○ 北村 元
正会員 忽那幸浩
正会員 後藤俊吾

当社では人材育成マスタープランを定めて人財育成に取り組んでいる。技術系職員は、入社5年目～10年目の間に土工、橋梁、トンネル、舗装、環境、交通、道路計画の7分野について「専門技術研修」として、全分野の専門技術を習得すべく研修を実施することとしている。コロナ禍の2020年度以前は、研修センターへ集合して実施していた研修の一部を、2020年度はオンラインで実施する事とした。本稿は、オンライン研修を実施する側で検討した内容や受講生のアンケート結果を取りまとめ今後の改善に向けて考察するものである。

1. はじめに

当社の技術系職員は、業務スキルと一定の技術力の両方をバランスよく有する事が求められる。業務スキル（図面判読や社内手続き等）は各組織単位での勉強会やOJTを基本に習得している。一方、技術研修は技術社員として業務を進めるために、根本となる技術的な知識を備えさせることが目的で、どこの企業でも目的は同様と思われる。当社では、土工・橋梁などのハード面や、交通・環境といったソフト的な内容を7つの専門分野に分けている。講師は各分野の専門性に精通した社員の他、外部有識者（大学教授等）に依頼し、基本的な内容や演習の他、時事の技術的話題・課題に関する講義を行っている。コロナ禍に直面して従前の集合による方法での実施は困難なため、オンラインによる方法にシフトし、あわせて従前の方法でのメリット、デメリットをこれまでの受講者のアンケート結果などをもとに整理して見直し、新たな研修計画を策定して試行し、そのアンケート結果等を取りまとめで、今後に向けた取り組みについて考察した。

2. 従前の集合研修の整理

平成初期までは教科書的なテキスト用い、学校の授業のようなスタイルで座学の講義が行われてきたが、パワーポイント(PPT)の普及により、図や写真、動画などを活用し、要点を絞った教材が用いられるようになった。一方、こうした教材は受講者に配布して読んでもらうことだけでは理解はしにくく、質疑応答を含めた講師による説明などが不可欠であることを再認識した。

PPTを用いた講義において、内容は要点を絞ってはいるものの時間配分等は講師に委ねられているため、要点を更に絞って説明したり、時間が足りない、という事がしばしば生じていた。また、学校の授業スタイルのため受講生側は受け身のため、睡魔や聞き漏らしは否めない。また、集合研修は遠方からの移動時間や研修場所の時期、収容人員の制約がある他、受講生の立場からすると、業務に関連する分野を受講したい場合、それが選択できる仕組みではなかったため、研修を強いられるという意識につながっていると思慮される。

一方、集合研修では現場研修をカリキュラムに入れており、実際のものをつくる現場を「観る」、「視る」機会は好評であり、また依頼した外部などの講師を交えた討議、研修期間中の懇親会も含めた人的交流も集合研修のメリットと評価できる。

キーワード コロナ禍、研修、集合、オンライン

連絡先 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2丁目18番19号三井住友銀行名古屋ビル 052-222-1184

